

町田市スポーツ推進審議会（第2回）
議 事 要 旨

1. 日 時 : 2013年7月20日（土） 10:00～12:00

2. 場 所 : 町田市役所 10階第2会議室

3. 出席者 :

・町田市スポーツ推進審議会

（会長）	川崎登志喜	玉川大学教育学部教授
（会長代理）	渡辺剛	国士舘大学体育学部教授
（委員）	三ツ谷洋子	法政大学スポーツ健康学部教授
	山本正実	町田市体育協会理事長
	市川健一	東京都障害者スポーツ協会副会長
（欠席）	守屋実	NPO法人アスレチッククラブ町田代表理事
	佐藤正志	町田商工会議所専務理事
	柴田智	社会福祉法人悠々会・ケアフルクラブ悠々園施設長
	菊盛由利子	市民委員
	新宅雅也	市民委員
	比良田健一	堺中学校校長

・事務局

文化スポーツ振興部スポーツ担当部長	笠原道弘
スポーツ振興課課長	羽根田文夫
スポーツ振興課担当係長	河本晋一
スポーツ振興課	本田裕介

4. 資料類 : 次第

資料1	第1回推進審議会で提起された課題等
資料2	計画骨子（案）
資料3	施策体系表（案）
資料4	第1回審議会議事録

5. 議事要旨

■ あいさつ

（文化スポーツ振興部スポーツ担当部長 笠原道弘）

・スケジュール的にはタイトだが、今回と次回で大枠を詰め、議会説明やパブリックコメントに図っていききたい。多方面からいろいろご議論いただき、より良いものにしていきたい。

■ 自己紹介

（佐藤委員）

・第1回は急な用事が入り欠席して申し訳ない。私は中学・高校と6年間バレーボールを続け、現在の人格を形成するうえで、スポーツ経験が非常に役立っていることを強く感じている。スポーツ振興計画が2009年に作られたことは知っていたが、国で基本法が制定されたことは知らなかった。今回の計画についても経済界のいろいろな意見をまとめて取り入

れさせていただきたいと思う。

■ 第1回審議会議事録確認

(新宅委員より1箇所修正の指摘があった。修正のうで公開する。)

■ 計画骨子について

(事務局より、資料1、資料2を説明)

(川崎会長)

- ・9ページ「第2章 計画の基本的な考え方 3. 達成目標の目安(数値目標)」について重点的に議論いただきたいということだった。まずは、資料について質問があれば伺いたい。ないようであれば、次の議題の「推進計画の施策体系について」も事務局から説明を受けた後であわせてご議論いただきたい。

■ 推進計画の施策体系について

(事務局より、資料3を説明)

(川崎会長)

- ・次の2つのことについて、それぞれの立場でご議論いただきたい。1つは資料2の数値目標が5年後の目標として妥当か、もう1つは資料3の施策体系(案)について重点的にできれば良いと思う施策、抜けていると思う施策をご議論いただきたい。

(市川委員)

- ・数値目標では、地域スポーツクラブが現状の4クラブから11クラブとなっているが、11の根拠がわかりにくい。モデルを作ることについては賛成で、最終目標にできるだけ近づける形で、モデルのなかで年次を追ってどのように増えていくかが重要ではないか。
- ・会員数は、地域スポーツクラブの進捗によって増減が出てくるため何人という目標は言い難い。現在が1,372人だから人口比で何%とするのか、あるいは、競技の関係で何人とするか、いろんな数字の見方があるので何人とするか意見をいうのは難しい。
- ・観戦者数については、チームが強くなれば増えるという面がある。基本理念では市民全体が活性化することになるとは思いますが、ホームタウン・チームをできるだけ強いチームにさせる施策を考えていただければと思う。人・モノ・カネ・情報をトータルで考えなければならぬ。

(山本委員)

- ・地域スポーツクラブの総会員数の目標値は延べなのか、実人数なのか? スポーツの現場をみると、スポーツに取り組む人が増えているのかという疑問がある。クラブには似たような人が来ていて、大会も同じ人が来ている。利用者の名前を書かせているが、実人員はつかんでいるか。
- ・市川委員がおっしゃったように、サッカーの例ではレンタル選手を頼んで良い成績を上げるようになったと聞く。観客を増やす工夫をお願いしたい。野津田競技場も1万人の収容人数に対し駐車場収容台数が800台しかないため、足をどう確保するか。町田市体育協会

でもスポーツ祭を野津田で計画したことがあるが、結果的には足の問題もあって体育館に変更した。今後はうまく利用していればいろいろなことができると思っているが、他所ではどうしているか。

- ・施策に関連して、計画では押し並べて市民全体を対象にしているが、トップを強くして広げていくのか、底辺を広げて上を目指すのか。体育協会では、都民体育大会や市町村体育大会にも人を出しているが、なかなか成績を上げられないため参加も増えない。そういう意味では競技スポーツでレベルをあげていけば、スポーツ アワードで町田にはこういう人がいると知れ渡って参画が増えるのではないか。

(佐藤委員)

- ・「ニュースポーツ」という言葉が出てきているが、計画に載せるのであればもう少し明確な概念としたほうが良いのではないか。
- ・ゼルビアも勝たないと動員が難しかったり、交通の便が解消されなかったりするため、観光協会や商工会議所も相談を受けている。フットサルは大きな競技場を必要としないため公営的な場で少しでも町田市の北から南までであると、スポーツに触れ合う機会が増えるのではないか。民間では一部の大型店にしかない。フットサルに限らず小さな広場があるだけでも市民がスポーツに触れる場がでてくるのではないか。
- ・小山では夏の時期から春にかけては婦人がカセットレコーダーをもって広場でラジオ体操をし、終わった後は公園を清掃している。ラジオ体操はスポーツを広める上での原点として良いチャンスではないかと思う。そういった意味でもスポーツの概念が整理されると良いのではないか。

(柴田委員)

- ・数値目標の「運動やスポーツを行う機会を持たた市民の割合」で、東京都では 2020 年に 70%を掲げているが、町田市は 60%で良いのか。以前、当ケアフルクラブで週 2 回ウェイトトレーニングをしている 12 人に「スポーツをしているか」とたずねたところ、2 人だけが「クラブに来ているからスポーツをしているのかな」という回答であり、残りは「スポーツはしていない」という回答だった。6 ページの「本計画における『スポーツ』の範囲」というところを広く認知させ、スポーツをしている人が、実感を持ちながらスポーツに取り組むことが大切なのではないかと思う。
- ・「地域スポーツクラブの総会員数」については、私も自治会や町内会の自主グループの活動をお手伝いさせていただいているが、そういった自主グループも体調を崩してやめる人があり、最近では会の数は多くても参加人数が減っている傾向にある。そういった活動を取りまとめるような組織として地域スポーツクラブの立ち上げをすることで会員数が増えていくと思う。前回も申し上げたが、地域スポーツクラブのなかに、地域に出向くようなプログラムを用意できれば良い。今年厚生労働省が健康づくりの指針を一部変更し、「ロコモ」という言葉が出てきている。その概念に町田市も乗ってはどうか。町田モデルとしてぜひ私も取り組みたいと思い、先日も町田市の高齢者福祉課にも「町ロコ体操」を作らないかと提案した。草の根的に運動やスポーツに携わる人が増えてほしいと思う。

(川崎会長)

- ・「ロコモ」とはどのような概念か？

(柴田委員)

- ・ロコモティブシンドロームの略で、運動器症候群といって、膝や腰が痛い人が転倒し要介護に結び付くケースが多いため、事前に予防しようという取組みのようだ。

(比良田委員)

- ・「地域スポーツクラブの総クラブ数」が現状4クラブから11クラブとなっているが、4クラブは現在どこのクラブか？

(事務局)

- ・法政クラブ、アスレチッククラブ町田、ISCA（元ジャパンアスリートスポーツクラブ）、インターナショナルスポーツネットワークがある。

(比良田委員)

- ・中学校区に1クラブという目標の内容だったので、どこにあるかと質問した。いわゆる総合型地域スポーツクラブとは捉え方が違う。中学校区に1クラブという考え方で目標を立てているが、そこまで達成できるか。
- ・11ページで、野津田競技場の足の問題が出ていたが、駐車場が有料化されたため道路に路上駐車している自動車も多く、駐車場の利用者が減っている。現地に行く人も駐車場が有料だからやめようという潜在的なネックにならないか。
- ・施策について、これだけまとめる作業は大変だったと思う。基本理念は「魅力ある地域社会の形成」とある。スポーツをする側が中心となっているが、地域社会を形成するという視点では、例えば近隣の自治会、町内会を巻き込む視点は考えられないか。スポーツは周りに理解してもらうことが大切で、例えば学校を利用する場合に近くで駐車すると近隣の人が苦情を言ったりすることもある。自治会や町内会を連携先として挙げることも考えられる。
- ・施策体系表の「1 地域におけるスポーツ推進」の学齢期で、④部活の新たな仕組みづくりとあるが、現在でも各学校で指導員を入れるなどしっかり取組みされているため、新たな仕組みをつくるというよりは部活を円滑に運営するという表現で良いと思う。それを支える人は外部の指導員、人材であるため、その内容が入っていれば良い。
- ・施策体系表の「3 スポーツ環境の整備」の(1)②学校施設へのクラブハウスの整備、(1)③学校施設以外へのクラブハウスの整備、(1)⑩地域スポーツクラブのモデル事業、(1)⑪地域スポーツクラブに関する情報発信の仕組みづくり、これらは学校ととても密接に関連する。ここは管理運営や指導など支える人を、お金をかけて入れない限り回らない。やはりモデル事業を立ち上げて、進めながら検証しながらいかないと総合型地域スポーツクラブが実現しないだろう。学校の経営計画でも総合型地域スポーツクラブの課題を毎年挙げている。
- ・施策体系表の「3 スポーツ環境の整備」の(1)③スポーツ推進委員による地域スポーツクラブの町田市モデルの推進について、連携先として「教育委員会指導課、校長会」があるが、直接関わる推進者として組み込まないと進まない。

(菊盛委員)

- ・数値目標で「地域スポーツクラブの総クラブ数」が現状4クラブから11クラブに7クラブ増やすのはあくまで理想だと思う。例えば、2013年度にモデル的にクラブを作り、その後1年に1クラブずつ立ち上げたとしても5年後に7クラブは達成できないのではないか。

現在の地域スポーツクラブが市民にもっと内容を伝えれば自分の身近なところでもクラブを作ってみようかということになるのではという気がした。

- ・施策体系表で、主体的な推進者としてスポーツ振興課が挙げられている数は約 20 ある。スポーツ振興課の人数だけでこれだけのことができるのか。また、「3 スポーツ環境の整備」の(1)⑦ストリート系スポーツの場の整備で、新たに整備する気持ちがあるのか。

(事務局)

- ・新たに整備する方向で検討している。

(新宅委員)

- ・先ほど柴田委員から、筋肉トレーニングをしている人が「自分はスポーツをしていない」と回答した話があったが、運動もスポーツと捉えるか。階段を上るだけでもスポーツだという話もだが、私は筋肉トレーニングを運動だと思うが、スポーツかと言われると考え方がわかる。
- ・地域スポーツクラブの目標についても、総数はこれで良いとしてモデル的な取り組みが進まないと感じがする。
- ・ホームゲームは何試合くらいあるか？

(事務局)

- ・ゼルビアは JFL に降格したため、それまでの 21 試合から今年は 17 試合に減少した。フットサルは 9 試合を 3 回戦行う。ホーム&アウェイでそれぞれ 9 試合、残りの 9 試合を 1 箇所集まって行うため、9 試合+3 試合の 12 試合前後となる。ラグビーはトップリーグが 14 チームあるが、今後増える予定だ。ただし、ホーム&アウェイの考え方がなく、現在東京近郊で試合を行っているのが秩父宮、三ツ沢、熊谷であり、町田で行っている試合ではない。ただ、協会には野津田でも行ってほしいと申請はしている。

(新宅委員)

- ・今年は降格になって動員も減少しつつあるのではという気がする。JFL に加盟する条件もあると思うが、それによって野津田の整備も必要になるのか。

(事務局)

- ・整備についてはまったく必要ない。優勝すれば自動的に J 2 に昇格できる。観客数については以前の平均 3,700 から今年は 12 試合終わったところで 3,200~3,300 くらいで、やはり数字的には落ちている。

(新宅委員)

- ・観客数を上げていくため、交通網をどうするかも含めて大事な要素の一つになっていくのではないか。
- ・施策体系表に学校の部活動は入っているが、クラブチームの活動をどう位置付けるのか。有料にしようかという話も出ていると聞くと、ジュニアの育成としては逆行してしまう。学校の活動だけでなく地域にはクラブチームがかなりあるため、どうしたら良いかが課題となろうかと思う。

(三ツ谷委員)

- ・数値目標で何人かの委員から議論が出ているが、現状ある地域スポーツクラブの法政クラブの理事をしている。大学の場合は、事務局を大学の職員が担当しているため民間のボランティアに比べれば人材がいなくなるということはない。また、大学も地域貢献のため行

っており他のクラブよりは場所もあるし、指導者もいるということで少し特殊である。その他の3つのクラブでは、皆さん熱心に時間を割きながらやっているのではないかと。しかし、そういう個人の犠牲の上に成り立つ運営は長く続かない。特定の人だけが汗をかくのではなく、参加する人が楽しむだけでなく運営も手伝うという仕組みを作ることが長く組織が継続していくポイントではないか。一気に11クラブという目標を掲げても、7クラブをどこの誰にやってもらうかが課題となる。現在のクラブの現状がどうなっていて何が課題かを掘り起こしてから、現在のクラブをいかにテコ入れするか等を踏まえて目標を立てることが重要ではないかと思う。町田市が窓口になって地域スポーツクラブ連絡協議会を開催し、何が課題になっているか、市が支援すること、参加者に呼び掛けることなど、こういう取り組みは市民側が全部市にやってもらうというのではなく市民側もできることはやらないと財源がいくらあっても足りないため、モデル的にクラブを作る場合は市民も楽しみながら運営に加わるという形にして、数人だけが苦勞するのではないクラブができれば良い。

- ・ホームタウン・チームの数値目標に関連して、改修により観客席が増えたのか？

(事務局)

- ・約6,200から10,500に増えた。

(三ツ谷委員)

- ・来場者数に観客席数も入れておくと、何%という目標も出て頑張れる数字になるのではないかと。
- ・施策体系表の「1 地域におけるスポーツの推進」で年代別に記述されているが、高齢期と障がいのある人が一緒にくくられている。障がいのある子ども達はもっと体を動かしてスポーツの楽しさを体験して欲しいという気がする。幼児期から年代別に設けてもらえるよりも良いのではないかと。障がいのある子ども達は肥満気味の子どもが多いように思うので、残っている機能で楽しめることはできると思うので、そのなかでパラリンピックに参加できるような子どもも出てくるのではないかと。
- ・主体的な推進者については市内の課を整理したということか。その推進者のなかに地元の商工会議所や民間団体も問題がなければ一緒に取り組むということで記載できれば良いのではないかと。

(事務局)

- ・推進者は基本的には市内だが、必ずしもそれだけではない部分もある。

(三ツ谷委員)

- ・施策体系表の「2 ホームタウン・チームへの支援と協働」で、アスリートのセカンドキャリアの生活支援のあり方の検討については町田市で取り組む必要はないのではないかと。例えばJリーグではJ1しかなかった時代には年間100人近く首を切られてその先どうするのかという点が社会的な問題になったが、J2、J3までクラブが増えた。それぞれの競技団体が考えるべきことで、市としては提案があれば対応すればよく、施策のなかに入れる必要はないのではないかと。
- ・「3 スポーツ環境の整備」(1)⑦ストリート系スポーツの場の整備で、相模原市が市内の工場跡地でスケートボードやマウンテンバイクができるような施設を整備し、利用者に運営を任せている。不良と思われるような子ども達も規制はされたくないが楽しみたい、そして任されればできるというグループがあるはずなので、自分達の遊び場ができればきちんと管理してくれるのではないかと。

- ・野津田競技場についてはアクセスが悪いということもあり、大勢の人に観に来ていただくにはシャトルバスを大会の時には出してもらうことが必要かと思う。
- ・ユニバーサルデザインという話があるが、スポーツ施設に限らず一般的な施設についても必要だし、その施設だけではなく改札口を出てからどういう動線で行くのか、車で来た方にはどこに駐車できるのかといった視点で見直すことが必要かと思う。各自治体で「パーキングパーミット制度」が導入されている。現在の車椅子のプレートはホームセンターで誰でも購入できるため障がいがない人でも駐車してしまう人もいる。自治体の証明書があれば優先的に使えるという仕組みにすれば、本当に障がいがある人が使いやすい街になるのではないか。
- ・情報発信という内容がいろいろな項目に出ているが、ホームページは案外見やすすくないケースが多いため、情報発信と書かれている項目を整理して、一括してホームページで見やすいような工夫をして、何も知らない人がわかりやすくすることが必要かと思う。

(渡辺委員)

- ・9ページの地域スポーツクラブ数については、追加することはないが、なぜ現状で4クラブしかできていないのかという理由については精査したほうが良い。
- ・動員数については、毎年トップ選手が集うとか、競技をすとかといった取組みが必要なのではないか。ただ観に来てくださいというだけではなじまないのかと思っている。
- ・野津田競技場は試合のたびに大渋滞を起こしている。やはり駐車場が足りないとみている。
- ・障がい者のスポーツについては、町田市にいる選手の種目を中心に支援をしていくことも一つの手ではないか。ある市ではバスケットを中心に全国の競技を誘致しようとしている。
- ・施策体系表の「1 地域におけるスポーツの推進」⑧健康づくりと連携したスポーツの推進とあるが、健康に関して1箇所しかない。柴田委員も先ほどいわれたように、ロコモは筋力系、メタボは循環系のため、どこかでしっかり位置づける必要がある。町田市では健康課だと思うがシルバーを対象とした指導員を育成し、総務省から助成を受けて道の駅のNPOが中心となって取り組んでいる。そういった取組みとの連携をどうするか。また、学校との連携について小学校については教育委員会と提携しているはずだが、大学との提携は行っているのか。提携をきちんとした形にしておくとうちも学生をボランティアに出しやすい。

(川崎会長)

- ・達成目標を具体的に決めていかなければならない。5年前に4クラブを11クラブにという目標を掲げたが、5年前に目標を作成した際に、クラブ数はいくつだったのか。

(事務局)

- ・当時は登録制がなかったため、0だった。クラブとして存在していたのは1つある。

(川崎会長)

- ・この5年間で3クラブ増えたということだが、この目標をそのままにするのか、現実をみてこの先も3クラブしか増えないだろうということでも7クラブくらいにするのか。そのあたりについて、ご意見のある方はいませんか。

(佐藤委員)

- ・この5年間で増えた3クラブは自発的に作られたのか、スポーツ振興課からの働きかけによるものか。

(事務局)

- ・自発的に増えたクラブである。

(山本委員)

- ・5年前に目標を設定した際の11クラブの根拠は何か。

(事務局)

- ・当初地域スポーツクラブの対象を、中学校区で20クラブ、ゼルビアのような地域を超えた広範囲なクラブとして1クラブを想定していた。そのうち中学校区の20クラブの半分として10クラブを作り、それに1クラブを足して11クラブという数字が出てきた。

(川崎会長)

- ・そういう意味では広範囲なクラブとしてゼルビアが実現したが、会費を取っているため他のクラブとは違うイメージを持つ人がいるのも事実のようだ。ただ、会費を払わずに地域スポーツクラブが成り立つと思っている人が多いため困っている部分もある。本当はお金をもらって活動しなければならないのだが、中学校で行うなら無料だろうと思われてしまうとクラブとして成り立たなくなり、文科省の補助金を受ける期間が終わるとダメになるのが全国の事例である。自分達で月々の会費を払わなければならないのだが、なかなかそういったクラブが町田市内には現実としてない。私としては11クラブという目標はあっても良いと思うが、それよりも従来なかった「地域スポーツクラブの総会員数」を出すのか、不要なのか。また、ホームタウン・チームの観戦者数についてもキャノンイーグルスにホーム&アウェイの考え方がないのであれば目標値に足す必要がないのではないか。ホームゲームを見る人が増えれば良いという考え方もあると思うが、そのあたりについてご意見はあるか。

(市川委員)

- ・この総会員数は、先ほど話が出たが、登録者数なのか、延べ人数なのか。延べ人数であれば指標としてはおこがましいような気がする。例えば、クラブ数の数値に参考として今何人が会員として登録されているという表現でも良いのではないか。会員数を指標にする意味はあるのか。

(川崎会長)

- ・全国的にいうと、年間1人1万円の会費を払い1,000万円で運営している地域のクラブが10%くらいある。このくらいの規模だと、事務局員にもお金を払えるし、指導者にも指導料を少し払える。町田市の場合は300人のため会費を1万円としても事務局費を払うということにはいかないだろう。だから、会員数を指標として出すにはまだ早いのかも知れない。モデルを作って運営してからの段階かと思う。市川委員のおっしゃったようにカッコ書きで現在何人の会員がいるという表記のほうが現実的かも知れない。人数を増やすとか増やさないというよりクラブを育てていくというほうが先なのかと思う。
- ・キャノンイーグルスの件はどうか。まだ町田で試合は行っていないが。

(佐藤委員)

- ・2019年にワールドカップでラグビーを誘致するという話が出ていると聞いている。

(川崎会長)

- ・現在は、合宿地などについて手を上げてくださいという段階と聞いている。これは次回までの宿題としたい。
- ・施策体系について、この5年間で何をしていくかという重点項目を表に1列作って、次回示していただきたい。キャリアについては事務局もやめようということで見え消しとなっているが、他にやめようという点、または重点項目にしたほうが良い点はないか。

(三ツ谷委員)

- ・地域スポーツクラブのモデル事業、ユニバーサルデザインは重点項目としてはどうか。

(川崎会長)

- ・先ほど、ニュースポーツの定義について話が出ていたが、学問的というと、ニュースポーツは日本にとって新しいという意味で、ヨーロッパで古くからあっても日本に紹介された時期が新しいということでニュースポーツとしているし、日本で新しく考えられたものもニュースポーツとしているため、定義が難しい。逆に町田市のニュースポーツとは何かを提案して5年間で広めてみるというのも一つの手だ。長野ではマレットゴルフ、北海道ではパークゴルフを県で力を入れて施設を作っているスポーツもあるため、町田といえど何かというスポーツを5年間で探っていくのも一つの手ではないか。あまり大きなスペースを必要とせずお金もかからないが、面白くて奥が深くてというようなスポーツを提案できれば、5年間の間に少しずつ浸透できるのではないかと思う。

(山本委員)

- ・体育館の予定表にも「ニュースポーツ」の種目が3つあり、コートの手もある。町田市でも認知されつつあるのではないか。

(川崎会長)

- ・そのスポーツについて重点的に講習会を増やすという方法もある。

(山本委員)

- ・室外では「マレットゴルフ」があり、長野県でも盛んだ。

(川崎会長)

- ・北海道の和寒では「玉入れの町和寒へようこそ」という看板があり、年1回全国大会を行い、賞金50万円出している。北海道ではまちづくりにスポーツを活用しているため、町田市でも面白いスポーツを考えていく手もあるかと思う。
- ・最後に一言ある方はいないか。

(三ツ谷委員)

- ・「3 スポーツ環境の整備」で広域スポーツのブランド化とあるが、ここでいう広域とはどういう意味か。

(事務局)

- ・武相マラソンや武相バレーボール大会の2つがある。町田市に限らず参加者が多くいるというスポーツを指している。

(市川委員)

- ・「1 地域におけるスポーツの推進」(1)⑧健康づくりと連携したスポーツの推進について、具体的に私は障がいのある若年とやっているが、重点項目に挙げていただければと思う。

(渡辺委員)

- ・基本理念に対して重点項目を整理したほうがわかりやすいのではないか。

(比良田委員)

- ・この計画は町田市内のスポーツに関するものだと理解しているが、中高年の登山については計画に含めるのか。流行っているし、人数も増えている。

(川崎会長)

- ・登山もスポーツだ。トレーニングは運動なのかスポーツなのかという議論はあるが、この会で私が階段を上るとスポーツだという話をした。自分が意思をもって体を動かすとそれ

はスポーツだというのが広い概念であり、駅まで健康のため歩く人はスポーツだが、遅れるから走る人はスポーツではない。そういう意味でアンケートをとる時に上手に質問しなければならない。皆さんの受け取り方が違うため、「この1年スポーツをしたか」と聞くと、ラジオ体操をしているがスポーツはしていないと考える人もいる。そこでパーセンテージが変わってくるため、皆さんのスポーツキャリアが見えてこない。先ほどの登山もそうだが、登山人口もスポーツ人口に入れたいところだ。

(事務局)

- ・本日審議していただいた内容を事務局で検討し、次回、推進計画の素案として整理する。

■ その他

- ・第3回審議会

日 時： 8月19日（月）18：30～

場 所： 10階第2会議室

テーマ： 推進計画素案について

- ・第4回審議会

12月開催予定

以上